

第3回 気づきのレベルアップ（その3）

2005年9月9日

有限会社 マネジメント・ダイナミクス

小倉 仁志

jin-ogura@management-dynamics.co.jp

職場は生きています。日ごとに変化しています。

私たちはそんな中で仕事をしているので、ポッターとしてはおれません。

そんな変化している職場で、私たちが気づかなければならないものを以下に列挙しました。

気づきの切り口

1. 現在発生しているトラブルに直接結びつくもの

これは、即改善につながるもので、短期的な視点で取り組むもの

2. 今後トラブルに結びつくだろうと思われるもの

これは、予防につながるもので、長期的な視点で取り組むべきもの

ただし、見つけたら、すぐに処置するのではなく、設備などの場合はその持ち具合を診た上で、計画的（計画ボード等を利用）に処置する

3. トラブルの発見を妨げる可能性があるもの

これは、トラブルが発生しても、その損失を最小限に抑えるために取り組むもので、これも中長期的に取り組むもの

1. ルール、基準といった決め事の中で、おかしいもの・守りづらいもの

a) 基準範囲にはとらずに入っているが、数値的なばらつきが大きいもの

b) 判断基準が実態と合っていないもの

c) 判断基準の範囲が適切でない（日常、または季節）もの

d) 判断基準の根拠があいまいか、または不明なもの

e) 判断基準そのものがあいまいで、解釈の違いで判断がばらついてしまうもの

2. ルール、基準といった決め事が必要であると思われるもの

a) 災害防止につながるもの

b) 不良等のトラブル防止につながるもの

c) 保全費等の経費の肥大化防止につながるもの

では、具体的にどのようなことに気づかなければならないか、作業について列記しました。

1. 作業の順序が統一されていない

(不良に結びつく可能性があるものについては、特に重要です)

2. ある重要な作業をし忘れても、見逃しやすい

(不良を垂れ流さないために、重要な視点です)

3. 作業の中に、不安全な作業がある

(意外に初心者ほど、これらに気づくものです)

4. 作業の中に、ムリ・ムダ・ムラがある

(安定した作業ほど、これらはほとんどありません)

5. 作業する上でのポイントが明確でない、教育していない

(不良に結びつく可能性があるものについては、特に重要です。作業標準書があっても、作業している人たち自身が作ったわけではないため、ポイントがずれていることも少なくありません)

6. 作業する上でのポイントが足りない

(4. と同様なことが言えます)

皆さんの職場でも、様々な気づきがあるはずです。

ぜひ、一つひとつの気づきについて軽視せず、大いに議論し、共有化し、賢く解決していきましょう。